

# 村落の広場・都市の広場

—和泉地方の事例を中心として—

市川秀之

はじめに

二 調査の概要

三 単独村落の広場

四 複数村落の広場

五 都市の広場

まとめ

## 論文要旨

わが国の村落・都市の広場に関する研究はこれまで皆無であり、また広場の存在そのものも注意されることは少なかった。しかしながら村落部においては小面積ではあるが恒常的な広場が存在し、共同体の運営にとって重要な機能を担っている。また都市においても小規模な共同体の保有する会所のような広場と、不特定多数の人々があつまる広場の二種類の広場が存在している。本稿ではこの村落・都市にみられる共同体的な広場と、都市において主にみられる都会的な広場との相関について考察するため、大阪府南部の和泉地域の事例について検討を加えた。当該地域においては、平野部、山間部にみられる農山村あるいは海岸部の純漁村において、典型的な共同体的広場がみられる。これらの村落の集落形態はいずれも集村であり、明瞭な村落境界をもち、非常に求心的な空間構成を示している。その中心にあたるのが広場

である。またこの地域は複数村落によって祭祀されるいわゆる郷宮座の発達した地域であるが、郷宮座の祭祀における御旅所が広場として重要な機能を担っている。御旅所の空間は日常的には単なる空き地であるが、祭礼時には多くの人が参集し賑わいを示す。このような複数村落における祭祀の場に都会的広場、あるいは都市そのものの始原的な姿を感じることができるともいえる。また都市の広場の代表として堺の宿院を取り上げた。宿院は元來住吉神社の御旅所であるが、時代の推移にしたがってその性格を大きく変化させている。古代には浜辺での禊神事が行なわれる清浄な空間であったのが、いつしか祭礼そのものが祝祭的なものへと変化していった。御旅所における祭礼が、その空間の集客的な性格を生み出し、ついには恒常的な盛り場としての性格を持つに至った。そこに都市祭礼と広場との典型的な関係をみることできよう。